

〔例会実施記録〕

― 100回を迎えた例会

― 第五一回から第一〇〇回までの軌跡 ―

例会事務局

令和四年一二月一〇日（土）に重要文化財・旧弘前偕行社で開催された例会は、第一〇〇回を迎えた。記念会という事もあり、主幹を務めてきた福井が報告を行った。長年会場として利用してきた弘前文化センターが耐震補強工事中で使用出来ないため、弘前大学に近い旧弘前偕行社を会場として初めて使用してみた。なお、第五一回から第一〇〇回までの詳細については表を作成したのでそれを見て欲しい。

例会は第一回から第五〇回までの約一五年間、藩政史研究会という名称で開催された。五〇回を迎えたことを契機に、藩政史研究会を発展的に解消して、第五一回から例会という名称に変更されたが、開催回数はそのまま引き継いだ。第一回から第五〇回迄の記録は、『國史研究』第九五号（平成五年一〇月三十一日発行）に元会長・長谷川成一弘前大学名誉教授が「藩政史研究会五〇回の歩み」を書かれているので、それを参照して頂きたい。実施記録の表もついている。

名称の変更理由について特に記すと、長谷川元会長は「近世研究者のみならず、原始古代・古代史・中世史・近代史の研究者も本会会員に増えつつあり、研究発表の場を拡大充実したい」と先ず述べている。また「弘前市を中心とした地域の会員を対象として主として開催していたのを改め、近年、大幅な会員の増加を見ている本会の会員に対して広く研

究成果を知らせたいという、いわば内容の充実と対象の拡大を図る意図のもとに、右のような提案となった次第である」とも述べている。

これらの提言を受けて例会として活動してきた軌跡を、反省と共に少し述べて見たい。例会を五〇回開催するには約三〇年かかってしまった。藩政史研究会の倍を要した事になる。これは、平成二〇年（二〇〇八）の第八四回以降、諸般の事情で年一回しか開催出来なかったためである。それまでは、年に二回は開催出来ていた。九月の国史研究会大会を挟んで、その前と一二月に開催をし、一二月の開催後には、会員の親睦を兼ねて忘年会も開催していた。昨年は瀧本会長の働きかけにより、三回開催出来たが、コロナ禍で令和二年は全く開催出来ずに終わった。

第五一回から第八三回までは、五〇名も参加した回があり参加者は多かった。これは長谷川元会長の意向により、院生や学部生も多数参加してくれたからである。院生や学部生にとっては研究者の報告を聴くことは勉強になったものと思う。また会員以外の参加もあった。

名称変更の効果はどうであったかというと、近世史の発表が多いという傾向は変わらないものの、近代史や古代史の発表があったのは藩政史研究会とは大きな違いと言える。民俗学や考古学の報告もあった。また、会員以外の報告も見られたのは、藩政史研究会で人文科学部の西洋史や東洋史等の先生方が講話をしてくれた事に繋がる。二回だけだが、他の研究会との合同開催が出来たのは収穫であった。

第一〇一回以降は、人文科学部の古川祐貴先生が主幹となって開催して行くので、会員の一層の協力と、新たな展開を望みたい。

（文責・福井敏隆）

表 弘前大学国史研究会・例会実施記録(第51回～第100回)

回	実施日	報告者	報告題	開催場所	参加人数	備考
第51回	平成5年12月12日	長谷川成一	北の元和偃武	弘前大学文学部	36(10)	
第52回	平成6年2月20日	斎藤 尚智	一向一揆の基本的性格について—加賀一向一揆と三河一向一揆の比較を通して—	弘前大学文学部	31(10)	
第53回	平成6年5月22日	相馬 英生	北日本における城下町の成立と展開—盛岡を中心に—	弘前市民会館	38(9)	
第54回	平成6年11月3日	福井 敏隆	津軽藩の漆栽培政策—『漆木家伝書』の解説を通して—	弘前文化センター	44(14)	
第55回	平成6年12月10日	鈴木 幸彦	津軽地方における芝蘭堂の門人達—高屋東助・三上隆圭を中心に—	弘前文化センター	29(9)	会員以外の発表
第56回	平成7年5月27日	小熊 健	救荒食の諸相	弘前文化センター	50(29)	
第57回	平成7年12月9日	相馬 英生	幕藩制後期における北奥城下の動向—盛岡を中心に—	弘前文化センター	37(19)	
第58回	平成8年4月21日	坂本 壽夫	五所川原地方における帰田法の諸様相	弘前市民会館	41(20)	
第59回	平成8年12月1日	遠藤 聡明	元禄・宝永期の津軽領内浄土宗の動向—道心蓮池の活動を中心として—	弘前文化センター	41(14)	
第60回	平成9年6月1日	石田 一生	律令国家における公と官の概念について	弘前文化センター	41(18)	
第61回	平成9年12月21日	浪川 健治	松前藩ぎと人別—民衆移動の素描—	弘前文化センター	40(14)	
第62回	平成10年6月21日	小石川 透	近世東北における鉾山の研究—盛岡藩を中心に—	弘前文化センター	40(17)	
第63回	平成10年11月3日	本田 伸	近世東北の藩領域—八戸・盛岡藩境絵図の検討を通して—	弘前文化センター	31(8)	
第64回	平成10年12月6日	向 美紀	青森県における土族授産政策をめぐって—旧斗南藩土族への対応を中心に—	弘前文化センター	41(15)	
第65回	平成11年7月25日	工藤 大輔	弘前藩領での時疫流行と折袴・施薬—安永二・三年を手かりとして—	弘前文化センター	30(6)	
第66回	平成11年12月12日	中園 裕	敗戦前後の民心動向	弘前文化センター	26(4)	
第67回	平成12年6月4日	鶴巻 秀樹	古代税制における紙の貢進について—奈良時代から平安時代にかけて—	弘前文化センター	28(10)	
第68回	平成12年12月17日	千葉 一大	盛岡南部家宛領知判物・領知目録について—その記載内容と発給手続の検討—	弘前文化センター	28(1)	
第69回	平成13年6月9日	北原かな子	津軽地方初の米国留学生たち—明治期津軽の洋学受容に関連して—	弘前文化センター	33(10)	
第70回	平成13年12月8日	鐘江 宏之	9世紀の津軽地方を考える—文字と仏教—	弘前文化センター	20(4)	
第71回	平成14年6月29日	土谷 紘子	徳川政権の確立と金銀山—鉾山間における移動と交流から—	弘前文化センター	22(6)	
第72回	平成14年8月31日	瀧本 壽史 浪川 健治 河西 英通	文化十年弘前藩民次郎一揆と地域民衆(瀧本) 幕末期の民衆移動と社会状況(浪川) 近代初期の民衆生活と地域思想—津軽・下北の視覚資料を通して(河西)	弘前文化センター	(例会の参加人数は不明)	第55回民衆思想研究会弘前大会と合同開催
第73回	平成14年12月15日	関根 達人	歴史資料としての近世大名墓	弘前文化センター	32(7)	
第74回	平成15年12月14日	岩森 謙	明治初期北海道・東北の宗教政策	弘前文化センター	21(5)	
第75回	平成16年6月27日	市毛 幹幸	十七世紀後半・十八世紀初期における松前藩・アイヌ関係の諸相について	弘前文化センター	22(5)	

第76回	平成16年11月27日	坂本 壽夫	近世津軽の酒造史—森田村盛家を事例として—	弘前文化センター	21(5)	
第77回	平成17年7月23日	岩森 讓	近世後期盛岡藩における神道優遇策について	弘前文化センター	28(11)	
第78回	平成17年12月11日	白石 陸弥	『秘日記』からみた安政江戸地震	弘前文化センター	28(7)	
第79回	平成18年3月25日	中園 美穂	合浦公園の形成と変遷	弘前文化センター	21(13)	
第80回	平成18年7月16日	土谷 紘子	秋田県鉾山の近代化と鉱害—大葛鉾山毒水問題を中心に—	弘前文化センター	25(7)	
第81回	平成18年12月9日	千葉 一大	藩主相続問題と藩の分立—寛文四年、盛岡藩・八戸藩の場合—	弘前文化センター	21(5)	
第82回	平成19年8月4日	田中 郁穂	近世後期における秋田藩の林業政策について—地域民衆の視点から—	弘前文化センター	20(7)	
第83回	平成19年12月8日	北原かな子	天皇巡幸とジョン・イングー日米文化交流の—局面を考える—	弘前文化センター	31(7)	
第84回	平成20年12月14日	薦谷 大輔	弘前藩の藩意識形成に関する一考察—「津軽一統志」写本の流布を手がかりに—	弘前文化センター	19(5)	
第85回	平成21年12月13日	白石 陸弥 市毛 幹幸	幕末期、弘前藩に到来した幕府通達外交関係文書—安政五ヶ国条約の廻達文書を中心に—	弘前大学創立五〇周年 記念会館	28(7)	共同発表
第86回	平成22年12月18日	藤原義天恩	弘前藩における平田国学—その思想的意義に関する考察—	弘前文化センター	19(1)	会員以外の発表
第87回	平成23年12月10日	長谷川成一	济州世界自然遺産と『耽羅巡歴図』	弘前大学附属図書館	31(6)	
第88回	平成24年12月9日	福井 敏隆 佐藤 賢一	蘭方医から洋学者へ—佐々木元俊の場合—(福井) 弘前藩の測量家 清水貞徳について(佐藤)	弘前文化センター	合わせて 26(2)	2012年度の洋学 史学会との合同 報告会・佐藤は 洋学史学会会員
第89回	平成25年12月14日	熊谷 隆次	奥羽仕置と九戸一揆—「裨賈家譜」の分析から、裨賈氏を中心に—	弘前文化センター	20(1)	
第90回	平成26年12月13日	篠村 正雄	弘前・黒石津軽家の両家について	弘前文化センター	22(0)	
第91回	平成27年12月13日	福井 敏隆	弘前藩の蝦夷地警備と青森妙見宮—発見された大星神社の鰐口が何を語るか—	弘前文化センター	32(0)	
第92回	平成28年12月10日	中野渡一耕	七戸藩日記類にみる同藩成立期の諸問題	弘前文化センター	24(0)	
第93回	平成29年12月9日	佐藤ミドリ	地域の人々と楽しむ原始護謄筆風士年表—また父佐藤正太郎の「従軍日記」を読む—	弘前大学人文社会科学部	30(2)	会員以外の発表
第94回	平成30年12月9日	萱場 真仁	近世中期における弘前藩林政の展開—宝暦・明和・安永期における領内山林をめぐる模索—	弘前文化センター	25(0)	
第95回	令和元年5月25日	竹内 健悟	弘前藩御国日記に見る鳥類の捕獲記録について—江戸時代前期を中心に—	弘前文化センター	21(0)	会員以外の発表
第96回	令和元年12月15日	大谷 伸治	天皇機関説事件後の憲法学—新体制派と反対派を分けたものは何か—	弘前文化センター	23(0)	
第97回	令和3年12月18日	中野渡一耕	北奥外様小藩八戸藩における鷹狩り—「鷹匠小路」に鷹匠はいたのか—	(オンライン開催)	15(0)	
第98回	令和4年7月24日	根本みなみ	「家」の視点から見る「御家」—「御家」という共同体をめぐる大名・家臣の意識と行動—	弘前大学人文社会科学部	23(1)	
第99回	令和4年10月29日	兼平 賢治	東北諸藩の日記と史料の残存状況	弘前プラザホテル	24(0)	
第100回	令和4年12月10日	福井 敏隆	弘前藩士の家格と武芸と昇進—弓術師範中畑家の場合を中心に—	重文・旧弘前偕行社	36(0)	

表の作成は福井敏隆。発表者は氏名のみ記載した。参加人数の () の数字は院生・学部生の人数である。